

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員（全員で15人）

- ・ 県医師会常任理事（学校保健技師）、岩手医科大学医学部緩和医療学科教授
- ・ がん患者の会代表
- ・ 岩手県対がん協会
- ・ 県福祉部局、県央保健所
- ・ 保護者代表（高等学校PTA 連合会）
- ・ 校長代表、養護教諭代表
- ・ 指導主事 等

2. 検討時期、内容

- 第1回（H27.6）：本県におけるがん教育の計画の検討
 第2回（H28.2）：事業成果の検証、次年度の取組の検討

② 教育委員会としての取組

1. がんの教育推進地域及び推進校の指定

地域一体となり医療・福祉・健康教育を推進している西和賀町を推進指定地域に指定するため、町教育委員会及び県立学校を訪問し、依頼を行った。

2. がんの教育推進校への講師派遣

県立西和賀高等学校へ外部講師を派遣し、生徒対象のがんの教育講演会を開催した。

日時：平成27年8月18日（火） 14：10～15：25

演題：「がんを正しく理解しよう～身近な病気から考える命と思いやり」

講師：順天堂大学 教授 佐瀬 一洋 氏

参加者：西和賀高校生徒1～3学年 108人、西和賀高校教職員、地域学校保健関係者、日本対がん協会、岩手県対がん協会、協議会委員 等

講演会後は、講師を囲んでがんの教育意見交換会を実施（45分）

参加者：講師、学校保健技師、日本対がん協会、岩手県対がん協会、西和賀高校教員、町内小中学校校長・養護教諭・教諭・指導主事（21人）

3. がんの教育推進地域「がんの教育推進部会」への参画

指導案検討の際、助言指導等を行った（指導案検討会）。

日時：平成27年8月24日（月）9：00～11：00

参加者：町内小中学校教諭・養護教諭・栄養教諭、指導主事（9人）

4. 教職員対象の研修会の開催

平成27年度岩手県学校保健講習会

日時：平成27年10月31日（金）

日程：講義「学校におけるがんの教育の意義と進め方」

順天堂大学 教授 佐瀬 一洋 氏

実践発表「西和賀町におけるがんの教育の取組」

西和賀町立湯田小学校 養護教諭 有馬 美保子

参加人数：学校保健担当者 103名

（小学校39人、中学校36人、高等学校27人、特別支援学校1人）

5. 事業成果物の作成

西和賀町での教育実践をまとめたDVDを作成、県内小学校へ1部ずつ配布



③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・保健部局で小学校6年生向けの「小学校用リーフット」作成の際に、協力を行った。
- ・岩手県対がん協会主催「平成27年度市町村検診担当管理職会議」にて、県でのがんの教育推進について報告を行った。
- ・岩手県医師会主催の「学校保健・学校医大会」にて、西和賀町での取組について紹介した。

(2) モデル校における取組

【西和賀町教育委員会（小学校）での取組】

- ・がんの教育推進部会（西和賀町教育委員会主催）
 - 第1回：アンケート項目及び指導案様式の確認
 - 第2回：指導案の検討（沢内病院の医師に内容等について確認・相談）
- ・授業実践（教諭と養護教諭のチーム・ティーチングによる）
西和賀町立湯田小学校（体育科保健領域：病気の予防「地域の保健活動・がんについて知る」）
 - 日時：平成27年9月17日（木）
 - 対象：6学年（8人）西和賀町立沢内小学校（体育科保健領域：病気の予防「輝かせよう私たちの命を」）※公開授業
 - 日時：平成27年10月5日（月）
 - 対象：6学年（16人）
- ・授業研究会
2校の授業実践後に授業内容の振り返り、意見交換を実施
- ・西和賀町学校保健研究集会での発表



【西和賀高等学校での取組】

- ・がんの教育講演会事前打合せ
高等学校担当者、日本対がん協会、県指導主事による講演内容、事前指導等の打合せ
- ・がんの教育講演会 事前指導（各学年）各1時間
「がんを正しく理解しよう」 養護教諭 及川 明奈
がんの基礎知識、がんについて知っていること、講師に聞いたこと等グループ毎にブレインライティングを実施
- ・がんの教育講演会（②教育委員会としての取組「2. がんの教育推進校への講師派遣」を参考）
- ・文化祭での展示発表（生徒保健委員会の取組）
がんについて、事前学習の様子、講演会メモ、生徒の感想、西和賀高校生から「がんの予防について一言」等



2. 事業の達成度について

- ・がんの教育を教科及び特別活動とそれぞれ違った教育課程で実施。今後、学校現場でどのようにがんの教育を取り入れていくかのモデルとなった。特に保健の授業に「がんの学習」を組み入れることは、系統的な学習を進めることができ、発達段階に合わせた学習が可能であることが明らかになった。
- ・また、特別活動においては、学習内容を発展的に広げ、様々な方向からがんについて学ぶ機会となった。
- ・児童生徒のアンケート結果（下記参照）から、がん教育の実施により、児童生徒はがんについての正しい知識を習得し、がんに対する正しい理解を深めることができた。
- ・教職員ががん教育を進めるにあたり、専門医や保健師の意見を聞いて指導案を作成するなど、地域との関係機関と連携を図ることができた。
- ・教職員対象の研修を行うことで、がん教育の意義と今後の取組について、周知することができた（下記参照）。
- ・協議会を開催し、委員からがん教育に対する様々な意見を聞くことで、今後のがん教育の課題と対策を検討することができた。

○児童生徒に対するアンケート結果

事業の戦後に児童生徒対象（小学校 2 校：24 人、高等学校 1 校：105 人）に評価アンケートを実施

※実施前と実施後と比較して、10%以上増加があった項目

質 問	実施前	実施後	増加 (%)
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	78.6	90.3	11.7
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う）	75.2	88.6	13.4
がんは日本人の死因の第 2 位である（誤り）	41.1	92.5	51.4
自分はがんにならないと思う（思わない）	41.9	63.4	21.5
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	48.1	70.9	22.8
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う）	58.1	80.0	21.9
がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（そう思う）	55.8	70.1	14.3
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う）	34.9	59.7	24.8

○教職員対象のアンケート結果

教職員対象の研修会実施後にアンケートを実施（対象者 103 名）

(%)

質 問	ねらいを達成できた	概ね達成できた	あまり達成できなかった	ねらいを達成できなかった
講義「学校におけるがんの教育の在り方と進め方」	76.0	25.0	0.0	0.0
実践発表「西和賀町におけるがんの教育の取組」	69.2	29.8	0.0	0.0

(感想)・なぜ、今がんの教育なのかということが理解できた。

- ・自分自身、がんを身近なものと捉えていなかったが、今日の講義でがん教育の必要性を感じた。
- ・授業実践は、保健学習を関連された実践で、わかりやすい内容であった。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

○平成 27 年度の取組から

- 1 小学校での取組を踏まえ、中学校で行うがんの教育の在り方について検討していく必要がある（系統性の検討）。
- 2 がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深めるためには、教職員の教材研究だけでは限界がある。専門知識を持つ外部講師の人材確保に努め、積極的に活用していくことを検討する必要がある。また、効果的な指導を図るために、地域の現状に触れるなど、積極的に地域との連携を図っていく必要がある。
- 3 がん教育の意義については、まだまだ教職員の理解が十分でないことから、教職員対象の研修会を継続して行っていく必要がある。

○平成 28 年度の計画

- 1 小学校での取組を踏まえ、中学校で行うがんの教育の在り方について指導案等の検討を行い、授業実践を行う（推進指定校）。
- 2 高等学校への講師派遣（がんの教育講演会の実施）14 校予定
- 3 学校保健研修会の開催（がん教育についての講義、実践発表）及び、体育教員への周知

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・小中高と系統的な指導が展開できるよう、発達段階に応じた学習内容の検討
- ・教職員が行う教科と外部講師を活用しての特別活動の内容の棲み分け
- ・連携可能な関係機関との連携及び学校への周知
- ・学校で活用できる外部講師の確保と学校への周知、及びその調整
- ・配慮が必要な児童生徒への対応

○教職員のアンケート結果

推進指定校でがん教育に関わった教職員対象（6名）に、事業実施後に評価アンケートを実施した。特に課題があったものとしては、以下のとおりである。

- ア 指導参考資料について
 - ・内容を深めようとするとなってしまうので、対象に応じた内容の設定に苦勞（小学校）
 - ・根拠となる資料収集・選択が難しかった（小学校）
- イ 指導者の知識について
 - ・がんに関する基礎的な知識が必要（小学校）
 - ・予防できるが完全には防ぐことのできないがんの特性の扱い方をどうすれば良いか（小学校）
- ウ 指導内容について
 - ・系統立てた指導計画がなく、小学校でどこまでを指導するのか分からなかった。系統的な計画が必要（小学校）
- エ 指導時間について
 - ・突発的なものなので時数の確保が厳しかった（小学校）

○協議会委員に対するアンケート結果

協議会委員対象（15人）に、協議会開催後に評価アンケートを実施した。がん教育についてご意見としては、以下のとおりである。

- ア 医療者の知識と教育者の教育技法の融合が重要（大学教授・医師）
- イ 協議会は、がん教育を学校に普及させるために、その意義と方策を提示する機関として役割がある（医師）
- ウ 学校の健康教育関係者には、がん患者の体験談等を聴く機会を設けて、がん患者の想いや考え、またどのような生活を送っているかなどについて理解したうえでがん教育にあたってほしい。また、がん検診の重要性について強調し指導してほしい（がん患者の会代表）
- エ 県民にもっとPRするべき。また、小中高では認知度が異なるので、内容を吟味する必要がある（対がん協会）
- オ 推進指定地域を拡大すべき。地域の情報（がん検診受診率等）については市町村も情報を持っているので活用して欲しい（県央保健所）
- カ がん教育を実施する上で配慮すべき事項に関する議論が必要である（県保健部局）
- キ 各学校の教育課程に位置付けるための手立てとして、①教務主任研修会等での啓発資料等の配布 ②がん教育を鑑みたモデル的な年間計画の提示 ③教科保健・特別活動・保健指導を「がん」という教育教材で横断的な関係図の提示 などが考えられる（校長）
- ク 地域の実情に合わせた連携の仕方（協力機関・外部講師）等検討していくことも必要（養護教諭）
- ケ 協力していただける医師・機関等のリストがあれば、学校現場も活用できるのではないかと（町教育委員会指導主事）

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で12人【内訳：がん専門医(県立病院)2人，医師会(学校医)1人，がん経験者支援団体代表1人，県保健福祉部保健予防課長1人，県教育庁義務教育課指導主事1人，県教育庁高校教育課指導主事1人，県教育庁保健体育課長1人，公立中学校保健体育科教諭2人，県立高校学校保健体育科教諭2人】

2. 検討時期，内容

7月3日	第1回協議会（がん教育の計画の検討）	出席者10名
11月13日	第2回協議会（中間検討・啓発教材検討）	出席者11名
1月29日	第3回協議会（事業成果の検証）	出席者12名

② 教育委員会としての取組

- ・ 教員対象のがん教育に関する研修会

日時：平成27年8月19日（金）

内容：学校保健・学校安全指導者研修会（ひたちなか市文化会館）の中で，県下教員に対し，がん教育について理解を深める研修を行った。

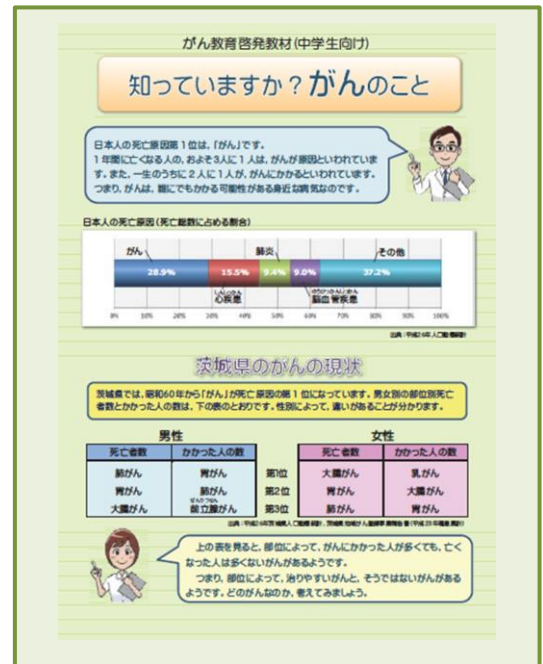
【参加人数：教職員910人】

- ・ 生徒対象のがん教育講演会

中学校6校，高等学校7校の生徒対象に，医師やがん経験者による講演を行い，がんそのものの理解やがん経験者に対する理解を深めた。

- ・ がん教育啓発教材の作成及び活用の促進

がんについての正しい知識やがん患者に対する正しい認識などの普及啓発を図るため，中学生向けの啓発教材（リーフレット）を作成・配布するとともに，学校での取組に対する支援として，指導参考資料（指導案の例示）を作成し，周知するとともに，県ホームページに掲載するなど，保健体育での授業や学級活動，総合的な学習の時間，道徳等で幅広く活用できるようにした。



作成した中校生向け教材（B5判4ページ）

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・ がん教育講演会の講師の選定にあたっては、医師の派遣を希望する場合には、茨城県医師会に、がん経験者の派遣を希望する場合には、患者会等の協力を得て、講師の選定及び派遣を行った。
- ・ がん経験者による講演会や出前授業が県内にさらに広がり、より多くの学校で講演会等の実施を推進していくため、患者会、保健福祉部局と連携・協力し、がん経験者の講師リストを作成した。

(2) モデル校における取組

- ・ 中学校6校、高等学校7校の計13校で、医師やがん経験者による講演会を開催し、生徒が、科学的な根拠に基づいたがんについての正しい知識や、がん患者に対する正しい認識について学んだ。
(延べ3,111人の生徒が受講)。



【講演講師種別及び受講生徒数】

	医師	がん経験者	合計
中学校	5校 (947名)	3校 (926名)	8校 (1,873名)
高等学校	5校 (861名)	2校 (791名)	8校 (1,652名)
合計	10校 (1,808名)	5校 (1,717名)	14校 (3,525名)

※各学校の希望により、医師又はがん経験者の講師を選択。

※各学校の実情により、対象学年を決定。()内は受講生徒合計数。

【講演時間】

	45～50分	55～60分	90分以上
中学校	2校	2校	2校
高等学校	4校	2校	1校
合計	6校	4校	3校

【講演会に利用した教育課程】

	保健体育	道徳	総合	特活	その他
中学校	2校	0校	1校	3校	0校
高等学校	0校	3校	1校	3校	1校
合計	2校	3校	2校	6校	1校

<外部講師活用の工夫>

- ① 医師を講師とした講演会では、指導の標準化を図るため、スライドを教育委員会で作成し、指導内容の共通理解を図るとともに、講師が適宜活用できるよう配慮した。
- ② がん経験者の講演については、県の取組について理解を求めるとともに、「がんは不治の病である」等の誤った情報や、不安や恐怖をあおる内容等を避けること、一次予防、二次予防の内容を含めることなど、講演の内容について事前に十分な打ち合わせを行った。

(3) その他

2. 事業の達成度について

がん教育講演会実施校（中学校 6 校，高等学校 7 校の計 13 校）の生徒を対象に，講演会の事前及び事後にアンケートを行い，その比較により，第 3 回がん教育推進協議会において事業評価検証を行った。

(1) 生徒の事前・事後アンケート結果（主なもの）＜平成 27 年度＞

【1 がんの学習について】

※「そう思う」，「どちらかといえばそう思う」，「どちらかといえばそう思わない」，「思わない」から選択。	[事前]	[事後]	[増減]
a○「がんの学習は，健康な生活を送るために重要だ。」（そう思う）……………	77%	→92%	(+15)
b○「がんの学習は，健康な生活を送るために役立つ。」（そう思う）……………	76%	→92%	(+16)

【2 知識編】

※「正しい」，「誤り」から選択。	[事前]	[事後]	[増減]
a○「がんは誰もがかかる可能性のある病気である」（正しい）……………	95%	→98%	(+3)
b△「がんは進行すると，今まで通りの生活ができなくなったり，命を失ったりすることがある」（正しい）……………	98%	→97%	(-1)
c○「がんは日本人の死因の第 2 位である」（誤り）……………	49%	→86%	(+37)
d○「たばこを吸わないこと，バランスよく食事をすること，適度な運動をすることなどによって，予防できるがんもある」（正しい）……………	95%	→97%	(+2)
e○「早期発見すれば，がんは治りやすい」（正しい）……………	93%	→96%	(+3)
f○「体の調子がよい場合は，定期的に検診を受けなくてもよい」（誤り）……………	92%	→94%	(+2)
g○「がんの治療法には手術治療しかない」（誤り）……………	87%	→92%	(+5)
h○「がんの痛みは我慢するしかない」（誤り）……………	86%	→90%	(+4)

【3 意識編】

※「そう思う」，「どちらかといえばそう思う」，「どちらかといえばそう思わない」，「思わない」から選択。	[事前]	[事後]	[増減]
a△「自分はがんにならないと思う」（そう思わない）……………	33%	→45%	(+12)
b△「将来，たばこを吸わないでいようと思う」（そう思う）……………	87%	→89%	(+2)
c○「日頃から，バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」（そう思う）……………	56%	→72%	(+16)
d○「がん検診を受けられる年齢になったら，検診を受けようと思う」（そう思う）……………	58%	→75%	(+17)
e△「がんの治療方法はいくつかあるが，医師が決めるものである」（そう思わない）……………	18%	→28%	(+10)
f○「がんになっても生活の質を高めることができる」（そう思う）……………	21%	→36%	(+15)
g○「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」（そう思う）……………	63%	→77%	(+14)
h○「がんと健康について，まずは身近な家族から話ろうと思う」（そう思う）……………	49%	→72%	(+23)
i○「家族や身近な人が健康であってほしいと思う」（そう思う）……………	88%	→91%	(+3)
j○「長生きをするために，健康な体づくりに取り組もうと思う」（そう思う）……………	77%	→85%	(+8)

(2) がん教育講演会を実施して効果が上がったものと考えられる事項

- ・がんを身近な病気であるという認識をもった。
- ・将来，がん検診を受診しようとする意識が芽生えた。
- ・命の大切さの理解を深めた。
- ・家族や身近な人とがんについて話し合おうという気持ちを持った。
- ・がんという病気はどんな病気か知った。
- ・がんの予防には良い生活習慣が大切であることが分かった。
- ・がん検診の大切さが分かった。
- ・がんにかかってもがんと正しく向き合える姿勢を養えた。

(3) 考察

「がんは誰もがかかる可能性のある病気である」という設問に，98%の生徒が，「正しい」と回答しているながら，「自分はがんにならないと思う」という設問に対して，「どちらかといえばそう思わない」及び「そう思わない」と否定的な回答をした生徒は，71%にとどまっており，がんという病気に対して，まだ現実的な感覚を持っていないように思われる。

今年度，医師の講師に対し，標準的なスライドを作成・提供し，講演会での伝える内容の標準化が図られたと考えるが，生徒の実態や発達段階に応じて，中・高別にスライドを作成し，何を重点的に教えていくかなど，学校担当者と講師の綿密な打ち合わせをしていく必要がある。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

今後、医師やがん経験者による講演会や出前授業を県内に広げ、より多くの学校で講演会等の実施を推進していくためには、講師依頼（引き受けていただける講師の数等）が課題になる。そのため、県医師会や患者会、保健福祉部局と連携・協力し、引き続き、講師リストの作成・充実を行っていく必要がある。また、がん経験者の方々には、がんの教育についての意図や学校教育での健康教育等の実情を知っていただくなどの研修も必要と思われるため、今後検討していきたい。

教員のがん教育に関する社会の動向及び必要性についての理解が不十分であると考えられるため、多くの実践事例とその効果を収集して周知を図ったり、作成した啓発教材を用いた授業実践事例について研修会に盛り込んだりするなど、教員に対する意識啓発が更に必要である。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・ がん教育についての教職員の理解と意識啓発を図るために、がん経験者を講師とした研修会を悉皆で開催した。また、今年度は、研修に授業実践発表を盛り込んだことで、参加者から「がんについての授業のイメージがついた」などの感想が寄せられた。今後、さらになんか教育を身近なものとするため、文部科学省によるガイドラインやモデル校の取組等を県内に周知していく必要がある。
- ・ 学校での取組に対する支援として、昨年度作成した高校生向け教材に基づいた指導参考資料、高校生用の学習指導案を作成した。また、中学生向けの教材（リーフレット）と指導参考資料を作成し、中学2年生に配布するとともに県ホームページにも掲載し、普及啓発を図った。さらに、平成28年度は、小学生向けのリーフレットを作成する予定である。
- ・ がん教育は、健康教育の一環として行われるものであり、児童生徒の発達段階に応じて行われるべきものである。そのため、小学校、中学校、高等学校の系統性を考えた指導内容を検討する必要がある。

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で13名【内訳：大学院教授2名(医学系研究科1名、保健学研究科1名)、学校医2名(小児科、内科医)、学校歯科医1名、学校薬剤師1名、がん患者団体連絡協議会1名、PTA連合会1名、高等学校PTA連合会1名、県看護協会1名、県立がんセンター医師1名、保健所長1名、県健康福祉部保健予防課がん対策推進室1名】

・事業を推進するにあたって中核をなす組織で、がんの教育の推進を図るために作成する「がんの教育に関する計画」に対し指導、助言を行うとともに、進め方等について検討する。また、事業の成果の検証等を行う。

2. 検討時期内容

期 日	場 所	内 容
10月5日(月)	群馬県庁	がんの教育の推進に向けた計画や進め方の検討
2月2日(火)	群馬県庁	がんの教育に関する計画や取組の検証、次年度の計画や取組についての協議

② 検討委員会について

1. 構成員

全員で14名【内訳：大学教授1名(医学系研究科)、大学准教授1名(医療学部看護学科)、教員3名(中学校2名、小学校1名)、養護教諭1名(高等学校)、各教育事務所指導主事5名、国立がん研究センター1名、がん患者団体連絡協議会1名、キャンサー・リレーションズ株式会社代表取締役1名】

・実践推進校において、がんの教育を具体的に展開するための計画及び実践内容等を検討する。

2. 検討時期内容

期 日	場 所	内 容
10月7日(火)	伊勢崎市立第一中学校	第一中学校での実施授業内容の検討及び南小学校での実践授業事前検討。また、検討委員の望月先生から指導いただき、これからのがん教育のすすめ方について協議した。
10月15日(木)	伊勢崎市立南小学校	南小学校での実施授業内容の検討及び興陽高校での講演会について検討。また、検討委員の西山先生から指導いただき、これからのがん教育のすすめ方について協議した。
12月8日(火)	県立伊勢崎興陽高等学校	興陽高等学校における講演会后、講師の桜井先生の

講演会内容を踏まえ、がん教育のすすめ方や配慮事項などについて協議した。

③ 教育委員会としての取組

7月 情報収集等 関係機関と打合せ

8月6日(木)	<p>1 モデル中学校区等教職員対象研修会の開催(伊勢崎南公民館) モデル中学校区の教職員等を対象に「学校でのがん教育」についての講義を行った。</p> <p>講師 群馬大学大学院 医学系研究科 病態腫瘍薬理学 西山正彦 教授 (一般社団法人 日本癌治療学会 理事長)</p>
---------	--

9月 組織づくり(協議会、検討委員会) 関係機関と打合せ

10月 協議会等開催準備、学校等打合せ

11月2日(月)	<p>1 がんの教育に関する研修会の開催(藤岡市みかぼみらい館 大ホール) 県内の養護教諭及び学校医等を対象に、「学校でのがん教育」についての講義を行った。【参加人数：600人】</p> <p>講師 群馬大学大学院 医学系研究科 病態腫瘍薬理学 西山正彦 教授 (一般社団法人 日本癌治療学会 理事長)</p>
----------	---

④ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- がんの教育に関する指導資料の作成

平成25年度から県内の小学校6年生を対象に、保健予防課がん対策推進室が作成した「群馬県の小学校6年生にどうしても知っておいて欲しいこと がんのこと。」が配布されている。

がんに関する学習に活用したり、保護者に啓発したりできるよう参考資料を作成し、県内小学校等に配布した。




登場人物	セリフ	備考
お家の人	「リーフレットを出して、今日、学校からこれが配られたんだ。」	リーフレットをリーフレットをしながら、リーフレットを受け取り、表紙を見る。
子ども	「リーフレットを子どもからもらって、群馬県の小学校6年生に、どうしても知っておいて欲しいこと「そうだったのか!がんのこと」か・・・」	
お家の人	「お家の人もいっしょに読んでみて、先生が言っていたよ。ここからリーフレットは、お家の人が持って下さい。」	内容を読み聞かせて下さい。
子ども	「じゃあ、一緒に読んでみよう。」	
お家の人	「がん」って、どんな病気なの?」	
お家の人	「リーフレットを開く。「がん」って、どんな病気なの?を接む」人間のからだは、皮ふや筋肉など、・・・、病気の「がん」になります。」	

資料 活用シナリオ『そうだったのか!がんのこと』(名前) ※お家の人(父、母、祖父、祖母など)準備するもの
○筆記用具 ○筆記用紙 ○そうだったのか!がんのこと、(児童の人数分) ○シナリオ(人数分)

(2) モデル校における取組


① 伊勢崎市南小学校

ア 取組内容

時 期	時 間	内 容
二学期	体育 (保健領域)	○「病気の予防」 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること、喫煙・飲酒・薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となることを理解する。
10月15日(木)	道徳	○主題名 限りある命を大切に 生命尊重3-(1) 「その思いを受けついで」 読み物資料や外部講師(がん経験者)の講話を通して、主人公の心情を考えることにより、死の重さや生きることの尊さなどを感じ、自他の生命を尊重する態度を養う授業を行った。 

② 伊勢崎市立第一中学校


ア 取組内容

時 期	時 間	内 容
二学期	保健体育	○「病気の予防」 がんをはじめとした生活習慣病とその予防について理解を図る
10月7日(火)	特別活動 (学級活動)	(2) 適応と成長及び健康安全 ○「がんについて知ろう」 DVD「がんって、なに？」(日本対がん協会作成)を活用し、がんに関する正しい知識の理解を深め、自らの健康を適切に管理しようとする態度を育てる授業を行った。 
10月21日(水)	道徳	○主題名 生命の尊さ 生命尊重3-(3) 「命を見つめて」 読み物資料や映像を活用し、主人公(がん患者)の生き方を考えることを通して、生命の尊さに気付き、自己の生命を大切にしようとする心情を深める授業を行った。
12月10日(木)	拡大保健 委員会	テーマ「いのちを見つめる ～がんについて考えよう～」 ・DVD「がんちゃん冒険」(日本対がん協会)視聴 ・講演 「がんの患者経験を通して」 講師 一般社団法人 グループ・ネクサス・ジャパン理事長 天野慎介 ・質疑応答



③ 群馬県立伊勢崎興陽高等学校

ア 取組内容

時 期	内 容
12月8日(火)	<p>○講義 『自分らしさって何』 講師 キャンサー・ソリューションズ株式会社 代表取締役社長 櫻井なおみ</p> <p>○質疑応答</p> 
3学期	<p>○生徒保健委員会 テーマ「がんについて」 ・「がんにならないために、がんになってしまったら、がんになってしまった人のために」の三点について、まとめた保健だよりを発行。</p>

2. 事業の達成度について

① 伊勢崎市南小学校 児童アンケートから

【がんの学習について】

(n=31)

(n=32)

質問		事前 (%)				事後 (%)			
		そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない	そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない
			そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	65	26	0	10	84	13	0	3
b	がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。	58	29	0	6	84	16	0	0

質問			事前 (%)		事後 (%)	
			正しい	謝り	正しい	謝り
a	(ア)	がんは誰もががかかる可能性のある病気である。	71	29	88	13
b	(イ)	がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなり、命を失ったりすることがある。	94	6	100	0
c	(ウ)	がんは日本人の死因の第2位である。	81	13	69	25
d	(エ)	たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることによって、予防できる。	97	3	100	0
e	(オ)	早期発見すれば、がんは治りやすい。	71	26	91	3
f	(カ)	体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくて良い。	23	77	3	97
g	(キ)	がんの治療には手術治療しかない。	29	71	25	75
h	(ク)	がんの痛みは我慢するしかない。	19	81	9	91

質問			事前 (%)				事後 (%)			
			そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない	そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない
				そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	(ア)	自分はがんにならないと思う。	16	48	19	16	19	28	25	28
b	(イ)	将来、たばこは吸わないでいようと思う。	77	13	3	6	84	13	0	3
c	(ウ)	日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	48	45	0	6	72	22	3	3
d	(エ)	がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	48	39	3	10	84	13	0	0
e	(オ)	がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	16	39	23	23	16	19	38	25
f	(カ)	がんになっても生活の質を高めることができる。	0	19	35	45	6	22	31	38
g	(キ)	がんになっている人も過ごしやすい世の中にした。	55	29	6	10	81	16	0	3
h	(ク)	がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	23	52	10	16	53	38	3	6
i	(ケ)	家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	84	6	3	6	94	3	0	3
j	(コ)	長生きするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	77	13	6	3	88	9	0	3

② 伊勢崎市立第一中学校 生徒アンケートから

【がんの学習について】

(n=33)

(n=32)

質問		事前 (%)				事後 (%)			
		そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない	そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない
			そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	73	24	3	0	94	6	0	0
b	がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。	70	27	3	0	100	0	0	0

質問			事前 (%)		事後 (%)	
			正しい	謝り	正しい	謝り
a	(ア)	がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	97	3	100	0
b	(イ)	がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなり、命を失ったりすることがある。	100	0	100	0
c	(ウ)	がんは日本人の死因の第2位である。	61	39	0	100
d	(エ)	たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることによって、予防できる。	94	6	100	0
e	(オ)	早期発見すれば、がんは治りやすい。	100	0	100	0
f	(カ)	体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくて良い。	6	94	0	100
g	(カ)	がんの治療には手術治療しかない。	9	91	0	100
h	(キ)	がんの痛みは我慢するしかない。	18	79	0	100

質問			事前 (%)				事後 (%)			
			そう思う	どちらかといえば		そう思わない	そう思う	どちらかといえば		そう思わない
				そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	(ア)	自分はがんにならないと思う。	6	24	30	39	3	9	38	50
b	(エ)	将来、たばこは吸わないでいようと思う。	91	6	3	0	97	3	0	0
c	(エ)	日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	67	33	0	0	59	41	0	0
d	(オ)	がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	58	36	3	3	75	22	3	0
e	(カ)	がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	12	36	33	6	0	9	34	56
f	(ク)	がんになっても生活の質を高めることができる。	18	30	42	9	22	44	22	13
g	(ケ)	がんになっている人も過ごしやすい世の中になりたい。	55	45	0	0	72	28	0	0
h	(コ)	がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	27	55	15	3	47	44	3	6
i	(コ)	家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	94	6	0	0	88	13	0	0
j	(コ)	長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	76	21	3	0	81	13	0	6

③ 群馬県立伊勢崎興陽高等学校 生徒アンケートから

【がんの学習について】

(n=197)

(n=198)

質問		事前 (%)				事後 (%)			
		そう思う	どちらかといえば		そう思わない	そう思う	どちらかといえば		そう思わない
			そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	65	33	2	0	77	22	2	0
b	がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。	63	35	2	0	73	24	2	1

質問			事前 (%)		事後 (%)	
			正しい	謝り	正しい	謝り
a	(ア)	がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	96	4	98	2
b	(イ)	がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなり、命を失ったりすることがある。	99	1	98	2
c	(ウ)	がんは日本人の死因の第2位である。	58	41	45	54
d	(エ)	たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることによって、予防できる。	93	7	96	4
e	(オ)	早期発見すれば、がんは治りやすい。	93	7	95	5

f	(オ)	体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくて良い。	7	93	4	96
g	(カ)	がんの治療には手術治療しかない。	11	89	9	91
h	(キ)	がんの痛みは我慢するしかない。	17	82	15	84

質 問			事前 (%)			事後 (%)				
			そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない	そう 思う	どちらかといえば		そう思 わない
				そう思う	そう思わない			そう思う	そう思わない	
a	(ア)	自分はがんにならないと思う。	8	24	37	32	6	27	34	34
b	(エ)	将来、たばこは吸わないでいようと思う。	88	8	2	2	88	8	1	2
c	(エ)	日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	33	53	13	1	43	46	9	2
d	(オ)	がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	48	44	6	3	57	34	5	4
e	(カ)	がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	14	37	30	19	11	25	35	28
f	(ケ)	がんになっても生活の質を高めることができる。	16	37	37	11	30	36	27	8
g	(ケ)	がんになっている人も過ごしやすい世の中にした。	53	43	3	1	68	28	3	1
h	(コ)	がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	38	43	15	5	39	42	14	5
i	(コ)	家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	89	9	1	1	88	10	1	1
j	(コ)	長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	67	28	3	2	70	23	6	2

④ 教職員等アンケートから

【がん教育に関する課題】

(人)

	質 問	苦労した
a	がんに関する教材や指導参考資料の作成	5
b	外部講師の確保	2
c	外部講師との指導内容等の調整	1
d	指導時間の確保	3
e	発達段階を踏まえた指導内容の検討	6
f	その他	1

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

（成果の概要）

- ・生徒：がんに関する内容の理解が深まったり、認識に変化が見られたりした。
- ・教職員等：がんの教育について考える機会となり、がんの教育の必要性を感じたり、がんの教育に対する認識に変化が見られたりした。
- ・保健師等：学校での指導の様子を知ることができたり、児童生徒に対するがんの教育について考える機会となったりした。
- ・保健部局をはじめ関係機関との連携に広がりや深まりが見られ、外部講師と連携した授業に取り組むことができた。

（平成 28 年度の取組について）

- ・今年度も、昨年度同様に、国費での取組を行っている。
- ・中学校、高等学校でのモデル校における「がんの教育」は継続して行うとともに、今年度は、小学校におい

での取組は検討中である。中学校、高等学校においては、文部科学省から示された指導案について、指導方法や教材の検討を進める。

- ・外部講師の活用として、がん患者さん体験談も授業に取り入れながら、がんの教育に取り組んでいけるよう、保健部局等との連携を密にして取組を進める。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・どの学年の児童生徒に、がんに関するどのような内容を指導するのが適切か検討する。
- ・指導に関する資料を作成したり、保健部局と連携し外部講師を整備したりする。
- ・教職員等を対象に、がんの教育に関する研修の機会を充実させ、啓発する。
- ・周りにがん罹患した方やがんで亡くなった方がいる教職員及び児童生徒に対する配慮について検討する。

自治体名	埼玉県
------	-----

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員(15人)

学校医1人、がん専門医1人、大学准教授1人、がん経験者1人、県保健医療部1人、校長2人、養護教諭2人、保健体育科教諭3人、市町村教育委員会指導主事1名、県教育局2人

2. 検討時期、内容

○がん教育推進連絡協議会の設置(年2回開催)

がん教育の推進を図るための「がん教育に関する計画」に対し指導・助言を行う。

【第1回連絡協議会】(がん教育の推進に向けた計画の検討)

日時 平成27年7月10日(金)

ア がん教育に関する計画の作成・検討

- ・学校におけるがん教育の課題の把握
- ・がん教育に関する支援体制と支援方法の協議

イ がん教育指導者研修会について

ウ がん教育授業研究会について

【第2回連絡協議会】(がん教育に関する計画の検証・成果報告)

日時 平成28年1月7日(木)

ア がん教育推進連絡協議会について

イ がん教育指導者研修会について

ウ がん教育授業研究会について

エ 成果と今後の課題について

オ 報告書について

カ 次年度の方向性について



② 教育委員会としての取組

学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心を持ち、正しく理解し、適切な態度や行動ができる生徒を育成するために、教職員を対象とした研修会やがんについての効果的な指導方法について検討した。

○「埼玉県がん教育指導者研修会」の開催

日時：平成27年7月29日(水) 13:10~16:30 埼玉県県民活動総合センター(伊奈町)

参加者数：315人(公立小・中・高・特別支援学校の教職員、市町村教育委員会の指導主事 等)

内容：行政説明 「埼玉県がんに関する指導の現状」

県教育局県立学校部保健体育課 指導主事

講演① 「学校におけるがん教育の在り方について」

講師 筑波大学体育系 教授 野津 有司 氏

講師② 「がん教育の実際 一出前授業を通して」

講師 埼玉医科大学総合医療センター呼吸器外科・緩和ケア推進室 准教授
フェリス学院大学音楽学部 非常勤講師 儀賀 理暁 氏

学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心を持ち、正しく理解し、適切な態度や行動ができる児童生徒を育成すべく、がん教育を推進していく教職員を対象とした「がん教育指導者研修会」を開催し、効果的ながん教育の在り方について研修を行った。

○がんに関する教材や指導参考資料の作成

中学校・高等学校において、「がんの教育授業研究会」を開催し、がんに対する関心を持ち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができる児童生徒を育てる効果的ながん教育の在り方について研修を行った。

※がんの教育推進連絡協議会に報告された支援結果を冊子にまとめ、県内の市町村教育委員会・県立学校・関係機関に送付

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

保健医療部疾病対策課が実施している「出前授業」において連携を図った。

(2) モデル校における取組

○ 「がん教育授業研究会」の実施

学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、中学校、高等学校において「がん教育授業研究会」を開催し、発達の段階に応じた適切な指導方法の検討、授業モデルの普及と指導参考資料の作成を行った。

ア 中学校授業研究会 【蕨市立第一中学校】

授業研究会のテーマ：「保健学習におけるがん教育の効果的な進め方について」

準備検討会：平成27年10月20日（火） 蕨市立第一中学校（参加人数6名）

授業研究会：平成27年11月5日（木）13：20～16：30

【単元名】 第3学年「(4) 健康な生活と疾病の予防」イ 生活行動・生活習慣と健康

【授業者】 咲間 悟 教諭

【参加人数】 中学校教職員、指導主事等 55名

イ 高等学校授業研究会【県立熊谷女子高等学校】

授業研究会のテーマを「保健学習におけるがん教育の効果的な進め方について」

準備検討会：平成27年10月5日（月） 県立熊谷女子高等学校（参加人数5名）

授業研究会：平成27年11月13日（金）13：20～16：30

【単元名】 第1学年「(1) 現代社会と健康」イ 健康の保持増進と疾病の予防
(7) 生活習慣病と日常の生活行動

【授業者】 小林 由里子 教諭

【参加人数】 高等学校教職員、指導主事等 27名

2. 事業の達成度について

○ がんの教育指導者研修会

小学校：162名、中学校：103名、県立：34名、特支：8名、教委：8名 【合計：315名】

	小学校	中学校	高等学校	特別支援
研修会は「大変参考になった」「参考になった」	100%	100%	97%	100%
研修会は「どちらでもない」	0%	0%	0%	0%
研修会は「参考にならなかった」	0%	0%	3%	0%

【参会者の感想】

・今回「がん教育」と言われ、すごく抵抗があり、必要性を感じていなかったが、がんについて、正しい知識を持つこと、子供たちに正しい知識、学びを伝える、教えることの大切さを感じ、がん教育の必要性、重要性について改めて考え、確認する機会となった。

・野津先生の講演から、がん教育も学習指導要領に基づき、生活習慣病と価値ある内容を上手に熱心に教えることが必要であると分かった。

・自分自身が乳がん経験者であり、現在も検査を行っている。早期発見が何より大切だと思っていながら、実際に自分の経験を役立てることが出来ず何とも言えない気持ちでいるところである。周りの人のことも含め、受け入れていける心の準備、からかいの対象にならないことなど小学校のうちからでもできることがあれば、授業という形にこだわらずに個人的にでもできることを模索していきたい。

〇がん教育授業研究会

中学校：55名、高等学校：27名

	中学校	高等学校
研修会は「大変参考になった」「参考になった」	98%	100%
研修会は「どちらでもない」	2%	0%
研修会は「参考にならなかった」	0%	0%



【参会者の感想】

<中学校>

- ・保健授業の中で、今まで「がん」を取り上げて授業を展開することはなかったが、必要性を感じた。
- ・生徒のがんについてのイメージが最初に比べて最後には変化した。先生のねらいが明確で生徒にしっかり伝わったから。
- ・本時は「予防と早期発見」と指導内容が明確な授業だった。
- ・大切な人へのメッセージを書かせる活動は、ねらいを振り返る方法として効果的だった。知識を活用した書かせ方だったので、学習内容がつかめていないと書けないが、生徒たちはポイントを押さえてよく書けていた。
- ・小学校では中学生のようにしっかり考えを持ち、判断できるまでの指導は難しい。小学校で行うなら「命の大切さ」の道徳や特活になると思う。
- ・まとめでは「がんは進行性や発見できないものもあるので、すべて早期発見で治るものではないこと、治る可能性が高い」という言葉があっても良かったのでは。

<高等学校>

- ・「がんに対する意識・危機感」を生徒に持たせるかが必要だと感じた。
- ・がんの予防と社会的対策について生徒が自ら考える上での切り口や資料の活用など参考となるものが多々あった。グラフ、データから考えさせる取組は取り入れていきたい。
- ・特別支援学校では、どの視点から健康や生活習慣に迫っていくか、生徒が「興味・関心」を持てるものを中心に授業を行うことが必要であるため、「食に関する内容」から健康を考えることから迫ってみたいというイメージを持つことができた。
- ・「自分の家族ががんの可能性と言われたらどうするか」等の具体的な場面設定でポイントを絞った討論を設定すると、更に内容と理解が深まるのではないかと感じた。

〇 成果のまとめ

- ・学識経験者、がん専門医、がん経験者を含めた推進連絡協議会を設置し、本県のがん教育の推進に向けて指導・助言をいただきながら、解決のための方向性を見出すことができた。
- ・がんに関する指導に携わる教職員のがんに対する正しい知識と意識の向上、及び学校におけるがんに関する指導の充実を図るため研修会を実施した結果、がん教育の必要性を十分理解し、学習指導の実践研究、普及啓発を行うことができた。
- ・行政説明では、本県のがん教育の現状と課題を説明し、今後の方向性と必要性について示した。また、学校におけるがん教育の在り方についての講演から、がんについての専門的な知識を習得し、がん教育の必要性及び進め方についての理解を深めることができた。外部講師が実施する、がん教育の出前授業を、教職員が受講することによって、命の大切さについてどのように生徒に伝えるかを深く考える機会となった。
- ・効果的な指導方法を検討し、学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、中学校、高等学校において、がんに関する内容の授業研究会を開催した。授業検討委員会では、発達の段階に応じた適切な指導の在り方について検討を重ね、授業研究会で提示したことで、参加した教員とともに、より効果的な指導方法について研究協議を行うことができた。学習指導要領に則ってがん教育を進めることができるよう、保健体育の保健分野、科目保健で授業案を検討することができたので、どの学校でも実践できる指導案を作成することができた。

3. 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- がん教育の目標を達成するためには、①保健学習では、がんに対する正しい知識を身に付けさせ、②教育活動全体を通じて、命の大切さ、がん患者への正しい理解について実施していくなど、役割を明確にする必要がある。どのようにがん教育を進めていくかは、各学校の実態に合わせて、学校が判断をしながら実施をしていくことになるが、モデルとなるような取組を提案していくことが重要。
- がんに関する出前授業は、各学校で実施できるようにしたいが、外部指導者の選定・依頼・派遣についてはネットワークができておらず、難しい状況である。疾病対策課が実施している出前講座も積極的に活用したいが、それ以外の外部指導者の謝金などは予算化されていない。このような点から、外部講師の育成と講義・講演のできる外部講師の育成、派遣のための調整が必要である。
- 教職員が、がんに関する知識を習得するため、本年度研究協議を重ねて仕上げた参考指導案などの情報提供の場としての研修会を継続する。また、講師の選定を含め、内容の精選を検討する。
- がん教育の取組を、各学校で実践しやすくするために指導案の提案だけでなく、工夫して普及することを行なっていく。また、今後のモデル校の選定を地域的にバランスよく選定し、効果的な指導方法について更に改善を重ね、がん教育の目標が達成できるように検討を重ねていく。



4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- がん教育推進連絡協議会は、平成28年度も年2回開催し、本県のがん教育推進のための計画・方向性、普及の仕方を検討し、指導・助言をいただくことで推進を図っていく。なお、委員の人選については、各関係団体に依頼する。
- がん教育の目標の役割を明確にする。
 - ・がんについて正しく理解することができるようにする。
保健体育（保健学習）の充実を図る。
 - ・健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。
出前授業や保健指導等、学校教育全体を通じて指導を行う。
- がんに関する指導を行う教職員の資質向上を図るため、研修会を実施していく。
研修会内容は、平成27年度（前年度）授業研究会の実践発表、学校におけるがん教育の進め方、命の大切さについて講義行う。
- 授業検討委員会を設置し、中学校、高等学校の保健学習での授業研究科、新たに小学校の保健指導での授業研究会を実施する。発達の段階を踏まえた指導すべき内容について、さらに検討を重ねるとともに、中学校、高等学校の保健学習では、平成27年度作成した指導案、指導資料を改善し、普及をしていく。小学校の保健指導では、健康と命の大切さについての指導実践例を作成していく。
モデル校・市町村教育委員会の選定については、東西南北の地域バランスを考慮し、これまで取組が行われていない地域を優先的に実施していく。
- 疾病対策課の出前講座を活用し、外部指導者のネットワークを構築する。次年度は、出前講座を活用する学校の取組状況を把握するため、保健体育課が学校と疾病対策課との仲介役となる。
また、今後、学校医などにも指導者を依頼することを踏まえ、指導すべき内容の選定や配慮すべき内容についての周知を図る。
- 県教育委員会と医療機関とが連携した研修会を企画していく。